

ISSN1343-4837

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書 第25集

高知県香美郡土佐山田町

# 旧 予 岳 寺 跡 予岳遺跡ツエガ谷地区

山田北部県営公園整備事業に伴う発掘調査報告書

2003.9

土佐山田町教育委員会



予岳寺跡周辺航空写真



旧予岳寺跡発掘全景

高知県香美郡土佐山田町

# 旧 予 岳 寺 跡 予岳遺跡ツエガ谷地区

山田北部県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書

2003.9

土佐山田町教育委員会

## 序

旧予岳跡は、土佐七守護と言われた一人で、香美郡中北部に勢力を誇った山田氏により造営されました。特に長禄元年（1457）に楠目城主、山田元道と周防国泰雲寺の僧雪心により開山したことは著名です。

山田氏も武者の榮枯盛衰に漏れず天文年間には長宗我部氏により滅亡させられます。滅亡後の予岳寺は『長宗我部地検帳』から窺えますが寺院としての具体的な内容については不明な点が多く、その全容は多くの謎に包まれています。

平成8年度に県営圃場整備事業に伴う緊急発掘調査を実施し、遺構の記録保存を図り今回、調査結果をまとめた報告書を刊行することとなりました。本書が今後の中世寺院の研究に止まらず地方史研究にも役立ち、さらに山田氏関連遺跡の保存、保護を進める上での一助になれば誠に幸甚なことだと思います。

最後になりましたが、調査においてご指導、ご協力いただきました関係各位の皆様に心から深く感謝の意を表します。

平成15年9月

土佐山田町教育委員会

教育長 原 初 恵

## 例　　言

1. 本書は、土佐山田町教育委員会が平成8年度に実施した旧予岳寺跡発掘調査報告書である。
2. 旧予岳寺跡は、高知県香美郡土佐山田町予岳字門前2829-1番地他に所在する。
3. 当該地の試掘確認調査及び発掘調査は、平成8年9月2日から平成9年2月2日、資料整理・報告書作成を平成15年度におこなった。
4. 調査体制は以下のとおりである。

調査主体	土佐山田町教育委員会
調査事務	土佐山田町教育委員会
5. 発掘調査にあたっては、地元新改地区の方々、土佐山田町文化財保護審議会、高知県教育委員会、(財)高知県文化財団高知県立埋蔵文化財センターの協力を得た。また、現場発掘調査・遺物整理・図面作成作業にあたって、下記の方々の協力を得た。記して感謝の意を表したい。

現場作業員	伊藤 仁、佐々木龍男、竹崎芳子、小松一仁、池 宣弘、中沢英子、山岡正明（第一経済大学学生）、大塚俊明、山本花子、山下厚子、井上郁雄。山崎政子、中西糸江、坂田千代、藤村清子、井上静江、山本冴子、吉川 篤
整理作業員	伊藤 仁、中村千代、岡林 光、竹崎寛将、井上博恵、高橋加奈、宗石祥一、風間俊秀（高知工科大学学生）、山口 正（高知工科大学学生）
6. 本書の執筆、編集は中山が行なった。
7. 旧予岳寺の調査、整理作業では、森田尚宏（高知県教育委員会文化財課埋蔵文化財班長）、松田直則（高知県埋蔵文化財センター調査第五班長）吉成承三（高知県埋蔵文化財センター主任調査員）筒井三菜（高知県埋蔵文化財センター調査員）はじめ数多くの方々から、助言、御教示をいただいた。併せて深く謝意を表したい。順不同、敬称略
8. 出土遺物及び調査資料については、土佐山田町教育委員会が保管している。なお、遺物についての注記は、「96-YYT」を使用する。
9. 遺構の名称については、SB(掘立柱建物)、ST(竪穴状遺構)、SK(土壙) SD(溝状遺構)、SE(井戸)、SX(性格不明土壙)、P(柱穴又はピット)を使用する。

## 本文目次

第Ⅰ章 遺跡の位置と地理的・歴史的環境.....	1
第Ⅱ章 調査に至る経過と調査方法.....	6
第Ⅲ章 遺構と遺物.....	8
第Ⅳ章 総括.....	22
予岳遺跡ツエガ谷地区	

## 挿図目次

図1 土佐山田町位置図.....	2
図2 旧予岳寺と周辺の遺跡分布図.....	5
図3 旧予岳寺跡周辺地形図.....	7
図4 旧予岳寺跡・ツエガ谷遺跡位置.....	7
図5 遺構平面図.....	9
図6 SB 1～3 遺構平面・エレベーション図.....	13
図7 出土遺物実測図①.....	14
図8 出土遺物実測図②.....	15
図9 出土遺物実測図③.....	16
図10 出土遺物実測図④.....	17
図11 出土遺物実測図⑤.....	18
図12 出土遺物実測図⑥(ツエガ谷地区出土遺物実測図).....	25
図13 ツエガ谷地区トレンチ配置図.....	26

## 表目次

表1 旧予岳寺跡周辺の遺跡一覧.....	5
表2 遺物観察表.....	19
表3 遺物観察表.....	20
表4 遺物観察表.....	21
表5 ツエガ谷地区出土遺物観察表.....	25

## 挿図目次

- 卷頭図版 1 旧予岳寺跡発掘全景  
卷頭図版 2 旧予岳寺跡周辺航空写真  
写真 1 遺構① 旧予岳寺跡周辺航空写真（圃場整備前）  
写真 2 遺構② 旧予岳寺跡  
写真 3 遺構③  
写真 4 遺構④  
写真 5 遺構⑤  
写真 6 遺構⑥  
写真 7 遺構⑦  
写真 8 遺構⑧  
写真 9 遺構⑨  
写真 10 遺構⑩  
写真11 予岳遺跡ツエガ谷地区 調査状況と遺物  
写真12 遺物①  
写真13 遺物②  
写真14 遺物③  
写真15 遺物④  
写真16 遺物⑤  
写真17 遺物⑥  
写真18 遺物⑦  
写真19 遺物⑧  
写真20 遺物⑨

# 第Ⅰ章 遺跡の位置と地理的・歴史的環境

## 1. 地理的環境

土佐山田町は高知県の中央東寄りに位置し、県下第3位の川である物部川の中流域に位置する。物部川により形成された沖積平野に県下最大の穀倉地帯である高知平野の北端に位置し、物部川の洪積台地及び四国山地の一部を含む。

この物部川は、県北東部の香美郡物部村、剣山系の白髪山（1,770m）の東斜面に源流を発し、高知平野東部の同郡吉川村で土佐湾に注ぐ。上・中流域は仏像構造線に沿って直線的に西南西流しており、流路に沿った上流へのルートは古来阿波国への最短距離として知られている。物部川に沿う山間部には河岸段丘が発達し<sup>(1)</sup>、土佐山田町で流路を南に変える。土佐山田町神母の木付近において平野部に流入し、肥沃な高知平野を縱断する。

高知平野東部を成す香長平野は不整形の扇状地で物部川両岸には鏡野<sup>(2)</sup>、山田野<sup>(3)</sup>と言われる古期扇状地の砂礫層から成る洪積台地を形成している。この台地は長岡台地と称される。長岡台地は、香長平野の北部を土佐山田町から南国市にまたがり、北東から南西に約5km連なる。洪積世中期以降に形成された比較的連続性に富んだ砂礫台地で隆起性扇状地である。

標高は扇頂部に近い土佐山田町付近では約50mに達し南西に緩やかに傾斜し、扇端部の南国市後免町付近では10m～15mである。台地面の北西側は国分川流域に扇状地性低地、南東側は物部川下流域の扇状地性低地に対して段丘面を持って接している。台地は河床から5m内外の標高を持ち、台地の間に新期扇状地が広がり、北端部は国分川の浸食により断崖を形成する。洪積台地には旧石器時代の遺跡は発見されていないが物部川河岸段丘両岸の山麓部<sup>(4)</sup>、国分川水系である砥川の発生する山間部の山麓部<sup>(5)</sup>で確認されている。また縄文時代の遺跡もほぼ同じ位置に所在する<sup>(6)</sup>。新期扇状地から沖積平野にかけての大字には県下最大の遺跡群、田村遺跡群（縄文時代～近世）<sup>(7)</sup>を始め大籠遺跡（弥生時代）<sup>(8)</sup>が分布する。また、柔里制地割の遺構が広く認められるが、旧物部川は洪水氾濫をたびたび繰り返しており柔里制地割の乱れた地域も多く、旧流路も數本認められる。

土佐山田町の市街地が乗っている扇頂部分付近は周囲に比べて高位な面となり、南部に一段低い下位面があり、二段の段丘面となっている。中央部から末端部は低地性氾濫原に向かって緩やかに台地斜面が傾斜し、特に西南西端は扇状地性低地の粗粒性沖積層に埋没しており湧水地帯となって小河川が流出し湧水帯を形成している。土壤は多湿黒ゴク土壌であり、層の厚さは20cm～50cm以上で下層は灰色か灰褐色の場合が多い。台地面は自然の河流が無く江戸時代以前は開発が遅れていたが、江戸時代初期、土佐藩奉行野中兼山が物部川に山田堰を築き、灌漑水路を設けたことによって台地面上にも導水が行なわれた。開発には、郷士が登用され、台地上には旧郷士屋敷が散在し、散村的景観を呈している。また、後免・土佐山田・野市の在郷町もこの時期に形成されたものである。灌漑用水により、かつては米の二期作が盛んであり、現在も高知平野の水出地帯の一部であるが、乾田であるため、古来、葉タバコ・野菜の栽培も盛んである。近年はビニールハウスの施設園芸も増加してきている。町域面積の70%を森林地帯で占め、林業が盛んで材木を多く産出する。工業は、地場産業の打刃物などがある。扇頂部の土佐山田町は物部川上流部と香長平野の接点に立地した谷口集落でもある。台地面はかつて開発の主体となった郷土屋敷の点在する散村形態がみられ、現在もその景観の名残がみられる。台地面の長軸（北東～南西方向）には沿う方向でJR土讃本線及び国道195号線が直線的に通過している。東にある三宝山の中腹には国指定史跡及び天然記念物である龍河洞があり、県下でも有数の観光地となっている。

## 註

- (1)『南国市史』 上巻 南国市教育委員会 1979
- (2)『野市町史』 上巻 野市町教育委員会 1992

- (3)『土佐山田町史』土佐山田町教育委員会 1979
- (4) 佐野楠目山からは石核、剥片などが表面採集されている。
- (5) 新改西谷遺跡からはナイフ型石器が多量に出土している。
- (6) 剣谷我野遺跡（香北町）などがあげられる。
- (7)『田村遺跡群 高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』第1分冊～第15分冊 1986 高知県教育委員会
- (8) 許（1）と同じ

#### 参考文献

- 『土佐山田町史』土佐山田町教育委員会 1979
- 『角川 日本地名大辞典 39高知県』角川書店 1986



図1 土佐山田町位置図

## 2. 歴史的環境

土佐山田町は、地理的に恵まれ県下最大の穀倉地帯である香長平野の一画に位置することから原始以来、脈々と人の営みを台地に刻みつけている。また、南に隣接する南国市とともに県下屈指の遺跡密集地帯である。

土佐山田町の歴史は、北部山麓部の西谷遺跡<sup>(1)</sup>の調査により旧石器時代後期に始まる。二次堆積物ではあるがチャート製のナイフ型石器が多量に出土し、遺跡の立地など奥谷南遺跡<sup>(2)</sup>と非常によく似ている。続く縄文時代では、新改川の河岸段丘上に立地する問キ丸遺跡<sup>(3)</sup>より早期押型文土器が出土し、また新改川支流の砥川左岸の小山田遺跡<sup>(4)</sup>からは、晩期の土器4基と突尖文土器が出土している。北部山間部に所在する飼古屋岩陰遺跡<sup>(5)</sup>からは早期押型文土器、厚手無文の葛島式土器、中期の船元II式土器、後期の彦崎KII式土器とともに多量のサスカイト製の石鐵が出土している。また、東部物部川左岸の段丘上に林田シタノチ遺跡<sup>(6)</sup>が存在するが、ここではピット状遺構から後期初頭の中津式土器が出土している。

弥生時代では前期に属する遺跡の確認には至っておらず、今のところ中期後半に位置づけられる龍河洞穴遺跡<sup>(7)</sup>が最古である。この遺跡は全山石灰岩でできた三宝山(322m)の中腹に開口した洞穴遺跡で、昭和8年に遺跡の部分が発見され、翌9年に天然記念物及び史跡として国指定を受けている。洞内の生活面は3室からなり、出土遺物は凹線文の発達した龍河洞式土器をはじめ、鉄錐、石錐、有孔鹿角製品、貝輪、骨管製玉、瑠璃製勾玉等の装身具、貝類、獸骨類の自然遺物などである。また、龍河洞式土器に混在してただ一点、弥生時代後期末のヒビノキII式土器が出土している。龍河洞穴遺跡と同時期とみられる遺跡に、子岳遺跡<sup>(8)</sup>、雪ヶ峰遺跡<sup>(9)</sup>、影山遺跡<sup>(10)</sup>がある。中期後半に属する遺跡は多く、原連跡<sup>(11)</sup>、原南遺跡<sup>(12)</sup>からは竪穴住居跡とともに環濠と思われる溝や掘立柱建物跡等、集落を構成していた遺構も発見されている。その北部台地上には、弥生時代後半～古墳時代初頭の土器群が出土したひびのき遺跡<sup>(13)</sup>が存在する。これらの土器群はヒビノキI～ヒビノキIII式土器と命名され、高知県中央部以東の標準式土器とされていると同時に、同遺跡がその時期に集落遺跡として栄えたことを示している。

弥生時代も後期となると遺跡数、規模の拡大がみられ、特に同遺跡に代表される後期後半に属する遺跡の急増が認められる。隣接するひびのきサウジ遺跡<sup>(14)</sup>では、弥生時代後期後半の竪穴住居跡が5棟検出されており、この内1棟は祭祀的意味を持つものと考えられている。また、物部川左岸には林田遺跡<sup>(15)</sup>が存在する。ここからは竪穴住居跡5棟が検出され、土器と共に多量の石鐵が出土している。

古墳時代には、小円墳・横穴式石室・群集といった特徴を持つ後期古墳が存在し、山麓部を中心に知られている。中でも、ひびのき遺跡に近い伏原大塚古墳<sup>(16)</sup>は、5世紀末から6世紀初頭に築造されたと考えられる。また、この古墳の周溝からは須恵器の円筒埴輪が出土している。この期の須恵器の窯跡は今のところ発見されていないが、当古墳の埴輪の存在を考えれば、出現期は少なくとも築造期と同時期まで遡ることは可能であろう。また、これらの遺跡を特徴づける遺跡として当町北部の新改地Ⅹとその周辺に所在する須江古窯群を挙げることができる。奈良時代から平安時代にかけての須恵器、瓦焼成の窯跡が現在40数カ所確認されている。窯跡の中には比江庵寺跡<sup>(17)</sup>の瓦を焼成したタンガン窯跡<sup>(18)</sup>や土佐国分寺の平瓦を焼成した東谷窯跡<sup>(19)</sup>も存在し、また新改川左岸の河岸段丘に所在する須江上段遺跡<sup>(20)</sup>、須江北遺跡<sup>(21)</sup>からは官衙的掘立柱建物跡や多量の須恵器、土師器が出土している。特に須恵器には曲彎した遺物が混在しており、須恵器生産に係わる遺跡と考えられる。なお、新改、須江地区はその西方2kmに土佐国府を抱えていることから国府と密接な結びつきが想定される。

当町南部の沖積平野は高知県最大の平野、香長平野北端部にあたり、広く古代の条里制遺構<sup>(22)</sup>を残している。また、「大領」「田倉」「宮毛田」等の地名があり、周辺からは古代の遺物が表面採集され古代香美郡の郡の推定地<sup>(23)</sup>と考えられる。

中世では、土佐戦国七雄に数えられる山田氏<sup>(24)</sup>が建久4年(1193)に土佐国へ入国以来勢力をのばし、楠目山田城を本拠<sup>(25)</sup>に領主制支配を行うが、長宗我部氏により天文期頃攻撃を受けて滅亡する。

近世にはいり野中兼山<sup>(26)</sup>による山田堀、上、中、舟入川の三用水の敷設等による長岡台地の開発により在郷町<sup>(27)</sup>として香美郡北部の山間地域と南部の平野部との接点として物産集散地となり、高知城城下町の経済圏域として

発展し、今日に至る。

註

- (1) 西谷遺跡『土佐山田史談』第25号「土佐山田町における考古学の成果と課題（VI）」2000
- (2) 『奥谷南遺跡Ⅰ』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター 1999
- (3) 『開キ丸遺跡 新改中部地区圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 2002
- (4) 小山田遺跡 註1と同じ
- (5) 『飼古屋岩陰遺跡発掘調査報告書』日本道路公團・高知県教育委員会 1983
- (6) 『林田シタノゾ遺跡Ⅱ 農村基盤総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 1993
- (7) 『龍河洞』高知県教育委員会 1959
- (8) 『土佐山田町史』P52 土佐山田町教育委員会 1979
- (9) 註8と同じ
- (10) 註8と同じ
- (11) 『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—原遺跡一』高知県教育委員会 1982  
『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—原遺跡II—』第25集 高知県教育委員会 1984
- (12) 『原南遺跡発掘調査報告書』高知県文化財団 1991
- (13) 『ひびのき遺跡』土佐山田町教育委員会 1977
- (14) 『ひびのきサウジ遺跡発掘調査報告書』（土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第8集）土佐山田町教育委員会 1990
- (15) 『林田遺跡発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 1985
- (16) 『伏原大塚古墳』（土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第14集）土佐山田町教育委員会 1993
- (17) 註8と同じ
- (18) 『高知県文化財調査報告書第16集 高知県比江庵寺跡』高知県教育委員会 1970  
『高知県文化財調査報告書第33集 比江庵寺跡発掘調査概報』高知県教育委員会 1991
- (19) 註8と同じ
- (20) 『新改東谷古窯跡群発掘調査』土佐山田町教育委員会 1978
- (21) 『土佐山田北部遺跡群—山田北部県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書—』（土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第12集）
- (22) 註21と同じ
- (23) 岡本健児「土佐神道考古学5」「土佐史談」第120号
- (24) 註8と同じP217
- (25) 註8と同じP248
- (26) 註8と同じP354
- (27) 註8と同じP365



図2 旧予岳寺と周辺の遺跡分布図 (S=1:25,000)

表1 旧予岳寺跡周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	西ケレトリ遺跡	弥生	23	雪ヶ峯2号墳	古墳	45	山田塚	近世
2	東平南古墳	古墳	24	八戸寺西古墳	タ	46	小田島遺跡	古代
3	枝板2号墳	*	25	夕下財遺跡	タ	47	藤原遺跡	弥生
4	枝板3号墳	*	26	長谷川丸遺跡	タ	48	前ノ芝遺跡	古代
5	植キノサキ遺跡	中世	27	メウカイ遺跡	弥生	49	大西土居遺跡	弥生
6	山ノ岡丸遺跡	*	28	伏原遺跡	古墳	50	楳呂遺跡	古代
7	瀬板古墳	古墳	29	鏡野学園古墳	タ	51	公儀の井戸1	近世
8	中沢古墳	*	30	小倉山古墳	タ	52	公儀の井戸2	*
9	横瀬古墳	*	31	伏原1号墳	タ	53	古町北遺跡	弥生
10	桜ヶ谷古墳	*	32	伏原2号墳	タ	54	古町西遺跡	タ
11	枝板東古墳	*	33	猪目城跡	中世	55	クロアイ遺跡	タ
12	横行山1号墳	*	34	ひびのきサウジ遺跡	古墳	56	原遺跡	タ
13	前行山2号墳	*	35	ひびのきの神母遺跡	弥生	57	高柳遺跡	中世
14	神母古墳	*	36	伏原大城古墳	古墳	58	高柳土居城跡	*
15	大元神社古墳	*	37	大塚遺跡	タ	59	鈴舟前遺跡	古墳
16	火元神社北古墳	*	38	ひびのき遺跡	弥生	60	ガケ森遺跡	タ
17	山田氏系代墓所	中世	39	ひびのき大河内遺跡	タ	61	鳥ヶ森城跡	中世
18	予岳古墳	古墳	40	田所神社遺跡	タ	62	加茂神社西遺跡	タ
19	予岳塙跡	古墳	41	横田遺跡	*	63	加茂城跡	*
20	長谷山1号塙跡	平安	42	南森城跡	中世	64	加茂遺跡	*
21	長谷山2号塙跡	*	43	宮田遺跡	弥生	65	山田島遺跡	古墳
22	雪ヶ峯1号墳	古墳	44	雪ヶ峰(談謬所)城跡	中世	66	旧予岳寺跡	中世

## 第Ⅱ章 調査に至る経過と調査方法

### 1. 調査に至る経過

旧子岳寺跡は香美郡中北部に勢力を誇った山田（大仲臣）氏の居城として知られる中世城跡の北側に所在する。江戸時代の初期まで現在地である万松山の中腹下の山麓の谷から農地にかけて所在しており、『長宗我部地帳帳』からは境内地は6反19代（約6,316m<sup>2</sup>）に及ぶ敷地面積を有していたことが判明する。慶安年間に火災により現在地に移転し現在に及んでいる。

近年、本地域に山田北部土地改良組合が設立され県営圃場整備事業が実施されることとなり高知県耕地課、南国耕地事務所（現中央東耕地事務所）と遺跡の保存について協議した結果、旧子岳寺の寺院域と推定される部分で圃場整備区域の約5,000m<sup>2</sup>のうち、掘削により遺構への影響が考えられる約2,500m<sup>2</sup>の部分について緊急発掘調査による記録保存を行なった。

#### 註

（1）『土佐山田町史』P245～251 土佐山田町教育委員会 1979

### 2. 調査の方法

発掘調査は寺院跡存在が予想される農地に任意によるトレンチ調査区を設定し、表土及び遺構検出面、遺物包含層直上までの掘削を人力により精査を行なった。遺構、遺物の出土状況及び上層等については、写真撮影を行なった後、平面図及び断面図を作成した。遺物の取り上げ、遺物の実測については、任意座標に基づいて4m方眼をかけ記録、実測を行なった。平面実測、及び地層断面については、20分の1を基本とし、必要に応じて10分の1の実測を行なった。



図3 旧予岳寺跡周辺地形図



図4 旧予岳寺跡・ツエガ谷遺跡位置図（1. 旧予岳寺跡、2. ツエガ谷遺跡）

### 第Ⅲ章 遺構と遺物

#### 遺構

旧子岳寺跡の調査は圃場整備施工の影響がある地区を全面発掘を行い、影響のない遺跡範囲地においては遺構の検出をおこなった。調査の結果、耕作土下の遺物包含層は浅く、ほぼ直下より遺構が検出された。掘建柱建物跡3棟、溝跡、水溜状遺構（園地）、ピットが検出された。遺構としては復元できる棟は数少なくまた第3調査区中央南側に石敷き基盤を思わせる石が集積、或いは乱石しており礎石遺構を思わせる遺構が検出されているが其の性格は不明である。よって集石遺構は今後の検討を有するが現段階において掘建柱建物跡を中心に述べることにする。

#### S B - 1

第3調査区の中央部に位置する。2間×5間の掘建柱建物跡で検出された掘建柱では最大規模を有する。間口は約1.2m程度で深さ約15cmから約40cmを計る。棟方向はN-45°にとる東西棟である。梁間西側列は約4.5mで梁間東側列は約4.3mを計る。柱穴の掘り方はほぼ円形を呈する。出土遺物は上師質土器の小片で実測は不可能である。

#### 第3調査区

#### S B - 2

2間×3間の掘建柱建物跡で間口は約1.5cm程度、深さは約35cmを計る。棟は南北棟で梁間は北側列で約2.8m、南側列で約3.0mを計る。棟方向はN-4-Wではほぼ真北である。柱穴の掘り方はほぼ円形を呈する。

遺物は土師質土器の小片が出土しているが実測は不可能である。

#### S B - 3

1間×2間の掘建柱建物跡で間口は約1.6cmから約1.8cm、深さ約20cm程度を計る。南北棟で梁間は北側列で約1.9m、南側列で約1.8mを計る。棟方向はN-5-Wでは北方向である。柱穴の掘り方はほぼ円形を呈する。遺物は出土していない。

#### 第7調査区

#### S D - 5

幅約4.5mで全長は不明である。溝の断面はU字を有する。深さ約40cm内外で南に向かって傾斜する。遺物は多量の土師質土器が出土している。

#### S P - 1

水溜状遺構で円形を呈する。直径約7mで底部は平底を呈している。深さは約1.5m程度で護岸に石がみられ、北側には本造構につながる溝がある。溝と接する部分の下側より備前焼の大甕が出土している。埋土中より立石に使用されたとおもわれる縦長の石が幾つか出土している。

旧予岳寺跡遺跡遺構図

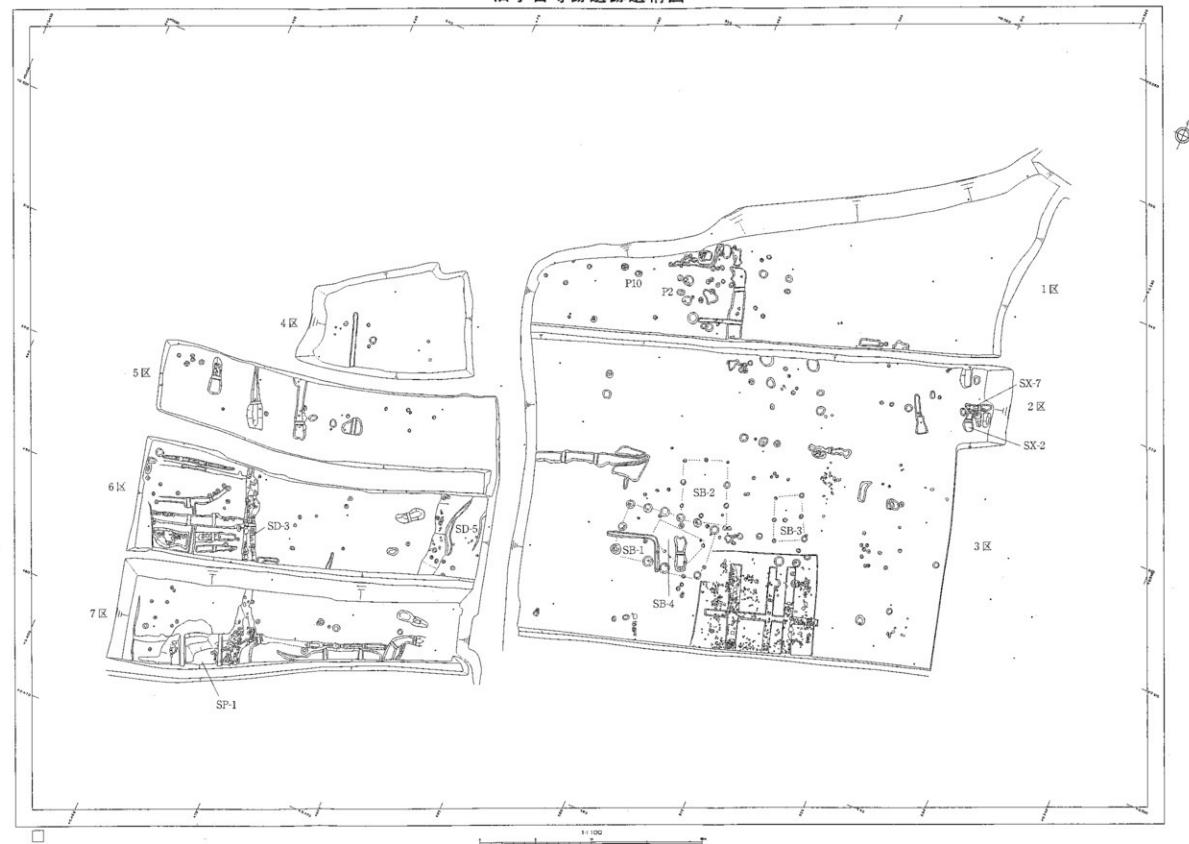


図5 遺構平面図

## 遺物について

旧予岳寺跡からは、遺物包含層より弥生土器、須恵器、土師質土器、青磁、染付などの碎片が多量に出土しているが、今回の発掘調査で出土した遺物の8割はSD-5より出土している。詳細は遺物観察表を参照していただき、ここでは概略を述べることにする。

### (1) 第1調査区 P-10 (番号33、46)

ピット10から番号33、46の土師質土器が出土している。内外面ともにロクロによる横ナデ調整が施され、底部には回転糸切りが残る。胎土は精錬された粘土を使用している。

### (2) 第1調査区 P-2 (番号32)

ピット2からは土師質土器の杯の破片が出土している。ロクロによる回転ナデの調整が施されている。

### (3) 第2調査区 SX-7 (番号36)

SX-7からは土師質土器の杯が出土している。形成はロクロによる回転横ナデ調整が施され、底部には回転糸切りが残る。胎土は精錬された粘土を使用している。

### (4) 第2調査区 SX-2 (番号51)

須恵器の提瓶の胴部が出土している。胴部表面には円形のカキ目がみられる。焼成は硬質である。

### (5) 第7調査区 SD-5 (1~31、37、19~45、54~57、60、61、63~72、74)

本発掘調査中比較的まとまった良好な遺物が出土した。土師質土器の器種は9割が杯で大きく2分類される。一つはロクロによる回転横ナデ調整を施し、底部は回転糸切りを有するもので口径は9cmから12cm、高さは3.7cmから4cm、底径は4cm内外のものである。

もう一方はロクロを使用しながら指圧によるナデの調整が施され、底部は窓による切り離し痕がみられる。口径は11cmから12cm内外、高さは3cm内外を計る。

### (6) 第7調査区 SD-3 (番号59)

土師質土器の杯の底部が出土している。ロクロによる回転ナデ調整が施されている。底部には回転糸切りがみられる。

### (7) 第7調査区 SP-1 (番号47)

水溜状の遺構より備前焼の大甕が出土している。47番は園地の池と思われる遺構より出土した。口径31cm、高さ72.2cm、底部は33cmを計る。胴部下位は縦方向に窓削りが施されている。内面は横方向の粗い刷毛目が施されている。口縁部は内径し、端部は肥厚する。

## 遺構外の遺物

遺構外の出土遺物は、調査区の第1調査区から第7調査区において第II層の遺物包含層から弥生土器、須恵器、土師質土器、青磁、染付などが多く量に出土しているがそのほとんどが小さな破片であることから図示してあるのは僅かである。

ここでは遺構外としてまとめて種類・器種ごとに個別の特徴を抽出して概略を述べることにする。なお、土器・陶磁器など法量・出土地点・層位の詳細は出土遺物観察表を参照されたい。

(1) 上節質土器（番号34、35、38、58、62、73）

上節質土器は杯がほとんどで番号34、35、38、58、62、73は底部の破片で内外面にはロクロによる調整、底部は回転糸切りがみられる。遺物は口径が10cm内外、高さ4.0cm～4.6cm程度である。

(2) 瓦質土器（番号52）

瓦質土器は土師質土器と比べると極端に少なく実測できるものは鍋の口縁部の破片で番号52である。全体的に摩耗が著しい。推定口径は24.6cm程度と考えられる。

(3) 備前焼・美濃系陶器（番号48、49、50）

備前焼は擂鉢と甕が出土している。擂鉢は番号49で口縁部の破片である。体部が直線的に外上方に立ち上がり口縁部がやや肥厚し、斜めに切り取られるタイプである。条線が下から上に施される。

備前焼の甕は番号50である。番号50は口縁部の破片で推定口径は29.8cm。口縁部は「く」の字状に外反し、肥厚する。

瀬戸美濃系陶器は番号48の鉢皿が出土している。見込みと外底は露胎である。見込みには窓による格子状の鉢目が施され、外底は回転糸切りが残る。

(4) 砥石（番号75、76）

遺物包含層より22個の砥石が出土している。

(5) 五輪塔（番号77、78、79）

発掘調査区の水路脇より五輪塔の火輪、水輪が出土している。火輪の番号77は全長13.9cm、幅25cmある。番号78は全長24.8cm、幅26.5cmを測る。水輪は番号80で全長19.1cm、幅23.4cmを計る。材質はどれも砂岩である。

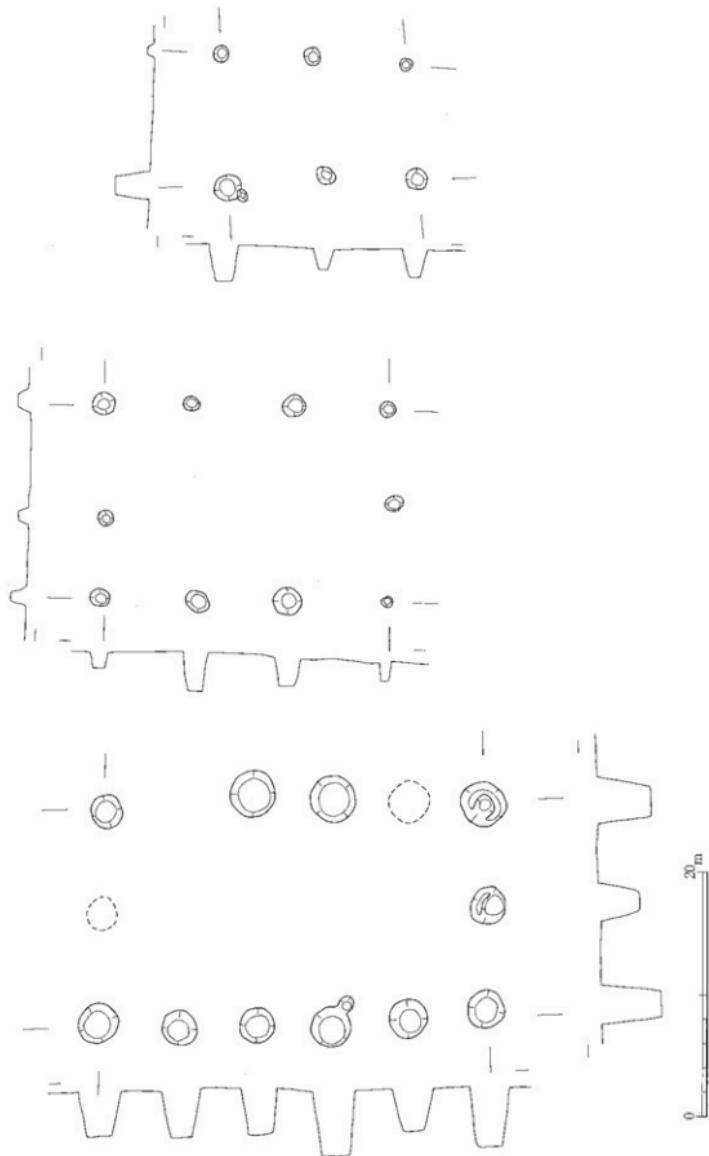


図6 SB 1~3 造構平面・エレベーション図

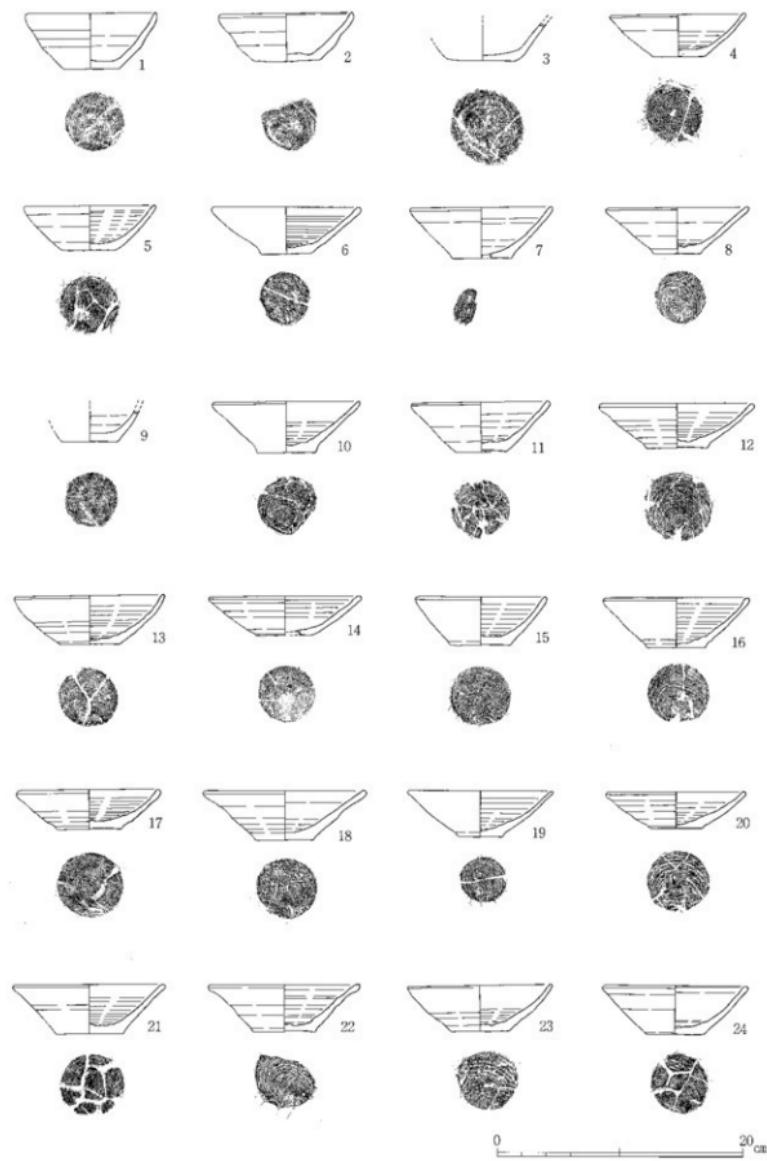


図 7 出土遺物実測図①

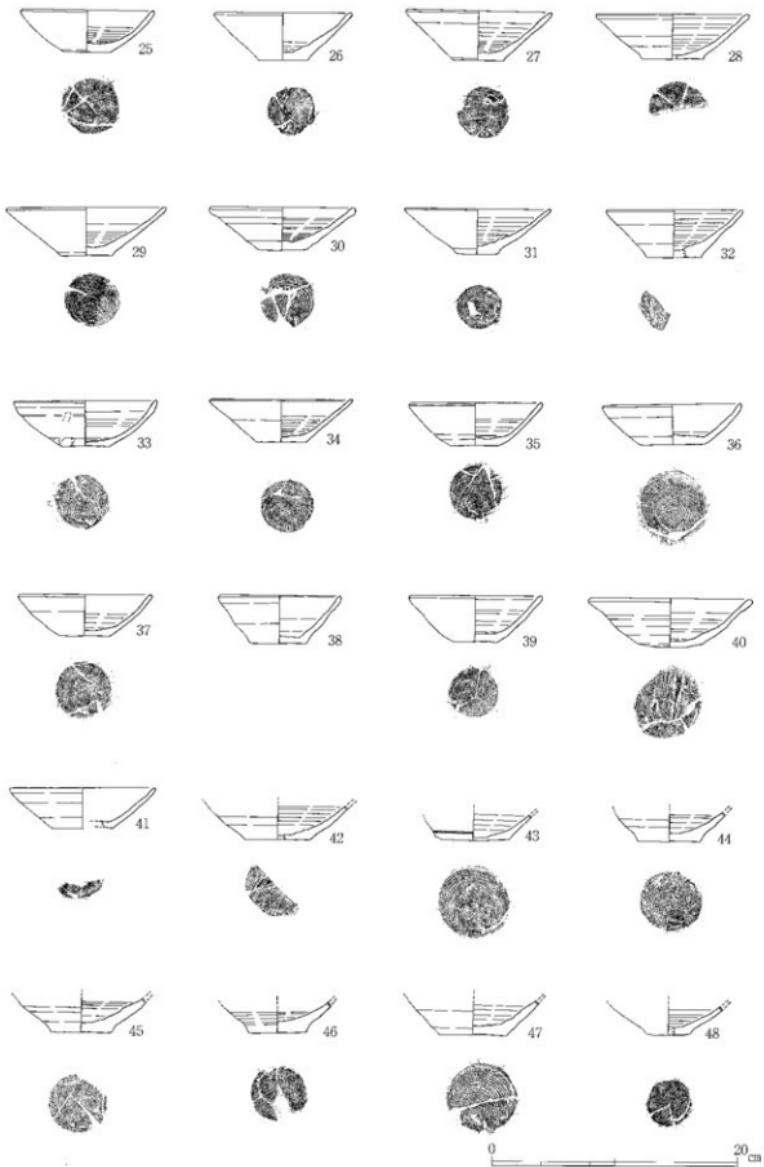


図8 出土遺物実測図②

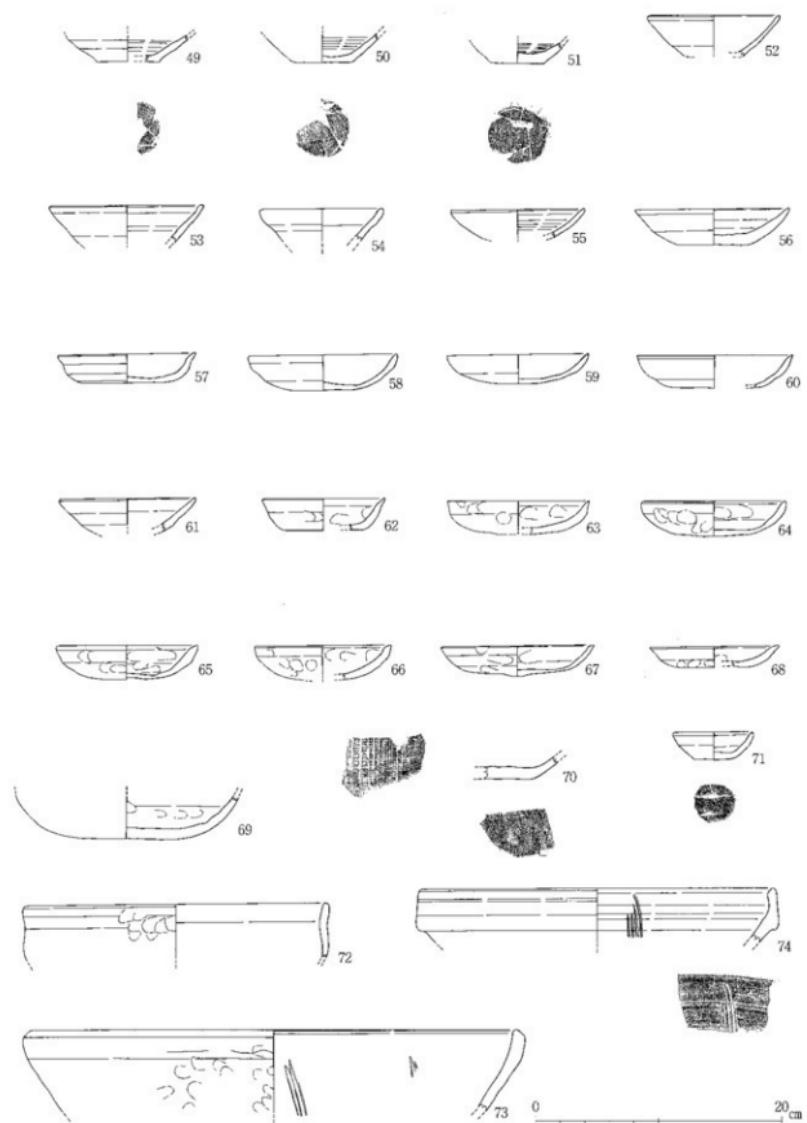


図9 出土遺物実測図③

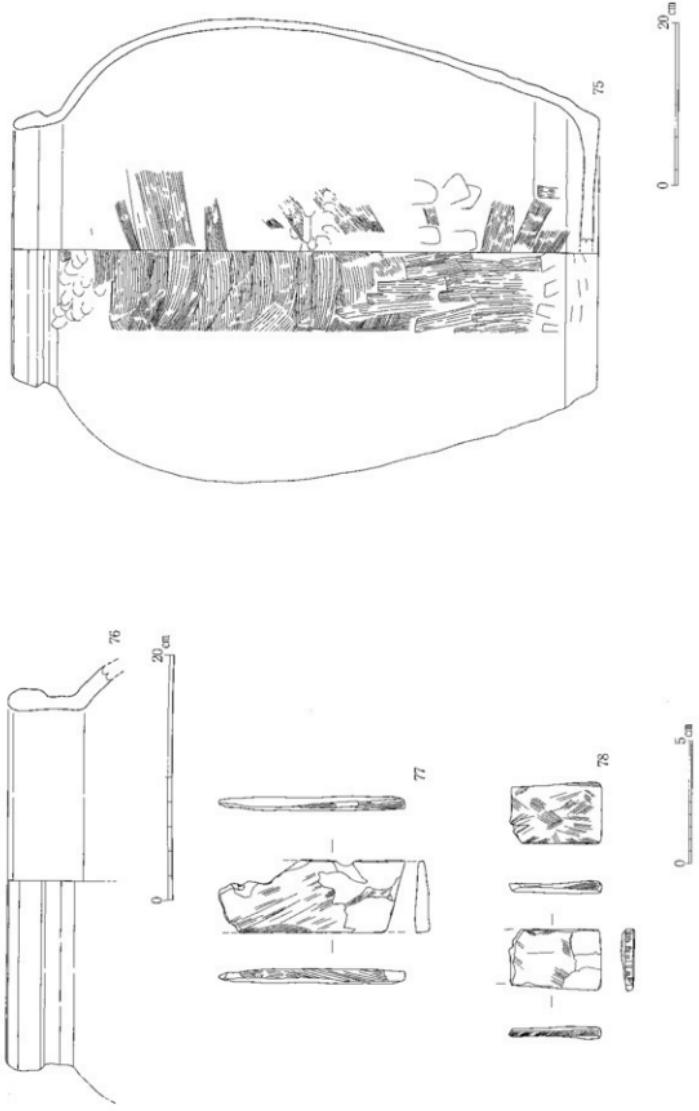


図10 出土遺物実測図④

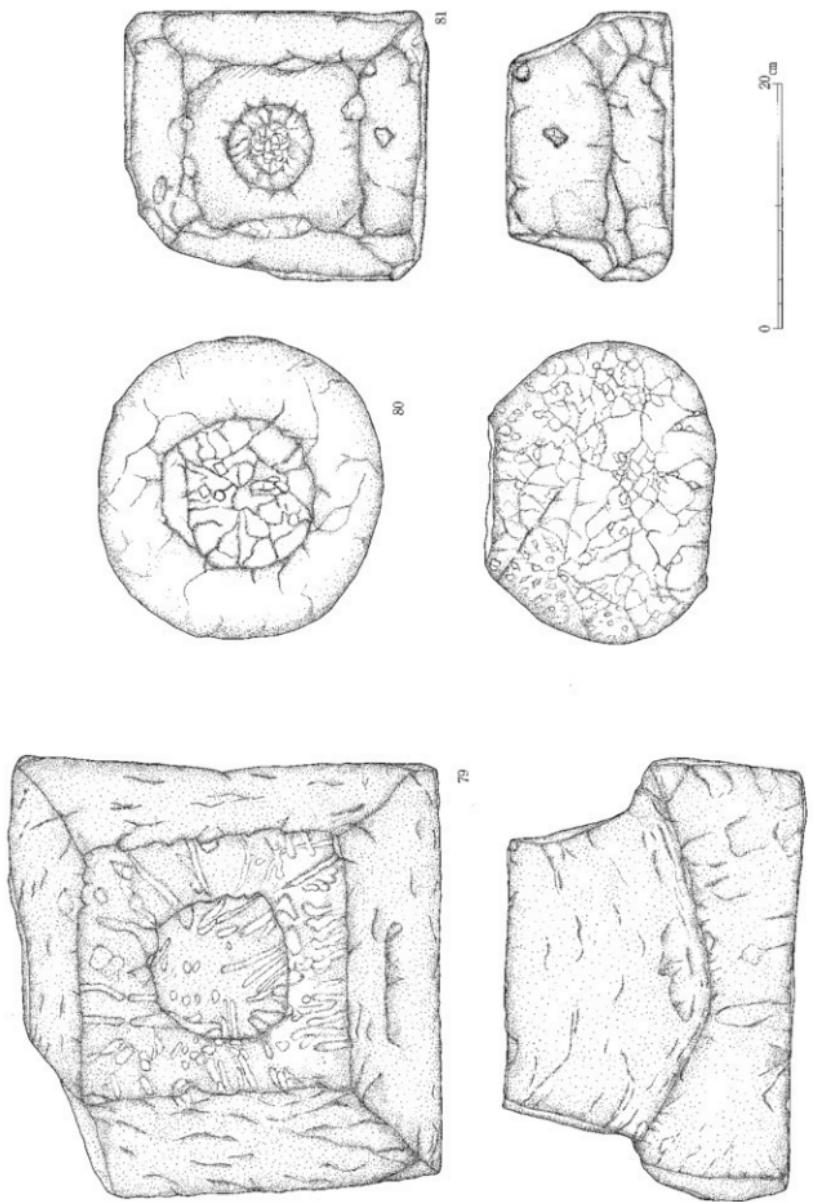


図11 出土遺物実測図(5)

表2 遺物観察表

番号 No.	図 No.	写真 写真	出土地点 出土地点	遺構・層位 遺構・層位	種類 種類	分類 分類	法量(cm)			粘土 粘土	焼成 焼成	色調 色調	特徴 成形・調整/その他の特徴
							口径 口径	岩高 岩高	底径 底径				
1	10	1	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	12.2	4.2	4.8	織錦粘土	内面: 7.5YR 7/1に赤い模外側: 7.5YR 6/3に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
2	13	2	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	12.4	4.0	5.0	織錦粘土	内面: 7.5YR 6/4に赤い模外側: 7.5YR 7/1に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
3	14	3	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	12.6	3.2	4.8	織錦砂質	内面: 7.5YR 6/3に赤い模外側: 7.5YR 7/1に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
4	20	4	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	11.6	3.0	4.4	織錦含	内面: 7.5YR 7/4に赤い模外側: 7.5YR 7/4に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
5	34	5	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	11.8	3.5	4.2	織錦彫り	内面: 7.5YR 6/3に赤い模外側: 7.5YR 6/3に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
6	24	6	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	12.0	4.0	4.8	織錦砂質	内面: 7.5YR 6/4に赤い模外側: 7.5YR 7/4に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
7	23	7	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	12.0	4.0	4.6	織錦砂質	良 内面: 7.5YR 6/4に赤い模外側: 7.5YR 6/4に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
8	27	8	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	12.0	40.5	4.3	織錦質	内面: 7.5YR 7/4に赤い模外側: 7.5YR 6/4に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
9	26	9	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	11.6	3.9	4.2	織錦質	内面: 10YR 9/3に赤い模外側: 7.5YR 6/3に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
10	4	10	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	10.8	3.5	4.4	3mm小石含	内面: 10YR 7/2に赤い模外側: 10YR 7/2に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
11	30	11	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	12.0	3.55	4.2	織錦粘土	良 内面: 7.5YR 7/4に赤い模外側: 7.5YR 7/4に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
12	40	12	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	(13.4)	4.0	5.4	織錦質	内面: 7.5YR 7/4に赤い模外側: 7.5YR 7/4に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
13	33	13	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	11.8	3.8	4.2	織錦質	内面: 10YR 7/3に赤い模外側: 7.5YR 7/4に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
14	35	14	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	11.0	3.5	4.4	織錦質	内面: 10YR 7/3/4に赤い模外側: 10YR 7/2/3に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
15	38	15	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	11.0	3.4	4.2	砂質	不良 内面: 2.5Y 7/3に赤い模外側: 2.5Y 7/3に赤い模	ロクロ/回転ナダ/全体不規則
16	39	16	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	(11.0)	3.85	3.6	砂質	不良 内面: 10YR 6/2に白外側: 2.5Y 7/4に白	ロクロ/回転ナダ/全体不規則
17	31	17	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	12.0	3.75	3.6	織錦質	内面: 7.5YR 7/4に赤い模外側: 7.5YR 6/4に赤い模	ロクロ/回転ナダ/向転糸切り
18	17	18	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	11.9	3.25	5.3	良	内面: 7.5YR 7/4に赤い模外側: 7.5YR 7/4に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
19	25	19	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	10.7	3.9	4.5	砂質	不良 内面: 10YR 7/2/3に赤い模外側: 10YR 7/2/3に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
20	16	20	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	12.0	4.1	4.8	良	内面: 7.5YR 6/4に赤い模外側: 7.5YR 6/4に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
21	8	21	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	11.8	3.8	4.0	織錦砂質	良 内面: 7.5YR 7/4に赤い模外側: 7.5YR 7/4に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
22	36	22	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	11.4	3.8	5.2	織錦砂質	内面: 7.5YR 7/4に赤い模外側: 7.5YR 7/3に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
23	15	23	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	10.8	4.0	5.0	織錦質	良 内面: 7.5YR 6/4に赤い模外側: 7.5YR 6/4に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
24	12	24	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	12.8	3.7	5.0	織錦質	良 内面: 7.5YR 7/4に赤い模外側: 7.5YR 7/4に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
25	29	25	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	13.2	4.0	4.2	織錦砂質	内面: 7.5YR 7/4に赤い模外側: 7.5YR 7/3に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
26	21	26	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	12.6	4.1	5.6	良	内面: 7.5YR 7/4に赤い模外側: 7.5YR 7/4に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
27	5	27	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	10.8	3.7	4.4	粗粒砂泥じり	内面: 7.5YR 7/3に赤い模外側: 7.5YR 6/2に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
28	18	28	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	13.4	4.1	4.8	良	内面: 7.5YR 6/4に赤い模外側: 7.5YR 7/4に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
29	6	29	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	12.3	3.95	4.3	良	内面: 7.5YR 7/4に赤い模外側: 7.5YR 6/4に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
30	41	30	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	12.0	3.3	-	内面: 7.5YR 7/6に赤い模外側: 7.5YR 6/6に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り	
31	28	31	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	12.6	3.7	5.0	内面: 7.5YR 7/4に赤い模外側: 7.5YR 7/4に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り	
32	52	32	1区	P-2	土師質土器	杯	1	1.8	-	-	内面: 10YR 7/6に黄褐色外側: 10YR 8/6に淡黄褐色	ロクロ/回転ナダ/	
33	7	33	1区	P-10	土師質土器	杯	1	11.7	4.2	4.9	内面: 10YR 7/4に赤い模外側: 10YR 7/4に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り	
34	1	34	2区	II層	土師質土器	杯	1	10.6	4.6	4.8	織錦砂	内面: 7.5YR 7/4に赤い模外側: 7.5YR 6/6に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り
35	2	35	2区	II層	土師質土器	杯	1	10.7	4.9	5.6	織錦質	内面: 7.5YR 7/4に赤い模外側: 7.5YR 6/6に赤い模	ロクロ/回転ナダ/回転糸切り

表3 遺物観察表

番号 No.	写真 No.	所々地點 Locality	遺構・層位 Structure・Strata	種類 Type	器種 Vessel	分類 Classification	法量 (cm)			胎土 Clay	焼成 Firing	色調 Color	特徴 Characteristics
							口径 Diameter	器高 Height	底径 Base diameter				
36	56	36	2区	SX-7	土師質土器	杯	1	12.5	3.5	5.0	織目含む	内面: 10YR6/3にぶい黄褐色 外面: 10YR6/2にぶい黄褐色 断面: 10YR6/2-3にぶい黄褐色	ロクロ/回転ナデ/回転糸切り
37	11	37	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	11.4	4.1	4.2		内面: 7.5YR7/4にぶい黄褐色 外面: 7.5YR7/4にぶい黄褐色	ロクロ/回転ナデ/回転糸切り
38	37	38	2区	II層	土師質土器	杯	1	9.8	4.0	4.6		内面: 7.5YR8/6にぶい黄褐色 外面: 10YR8/3にぶい黄褐色	ロクロ/回転ナデ/回転糸切り
39	19	39	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	12.0	3.8	3.8		内面: 5YR2/6にぶい 外面: 7.5YR7/6にぶい	ロクロ/回転ナデ/回転糸切り
40	60	40	7区	SD-5	土師質土器	杯	2	12.8	2.7	6.8		内面: 7.5YR7/6にぶい 外面: 7.5YR7/6にぶい	ロクロ/回転糸調整
41	67	41	7区	SD-5	土師質土器	杯	2	12.5	2.5	8.4		内面: 10YR7/3にぶい黄褐色 外面: 10YR7/3にぶい黄褐色	ロクロ/回転ナデ/回転糸調整
42	64	42	7区	SD-5	土師質土器	杯	2	11.0	2.9	6.8	織目含む	内面: 7.5YR7/4にぶい黄褐色 外面: 7.5YR7/4にぶい黄褐色	ロクロ/回転ヨコナデ/押住ナデ調整
43	57	43	7区	SD-5	土師質土器	杯	2	11.3	2.3	7.0	粗粒砂質	内面: 7.5YR6/4にぶい難 外面: 7.5YR6/6にぶい難	ロクロ/内外面指圧ナデ
44	58	44	7区	SD-5	土師質土器	杯	2	12.2	2.9	4.2		内面: 7.5YR7/4にぶい黄褐色 外面: 7.5YR7/4にぶい黄褐色	ロクロ/内外面指圧ナデ
45	45	45	7区	SD-5	土師質土器	杯	2	11.6	2.4	3.0	織目質	内面: 10YR8/4にぶい黄色 外面: 10YR8/4にぶい黄色	ロクロ/内外面指圧ナデ
46	71	46	1区	P-10	土師質土器	小豆	3	6.5	2.3	3.2	やや良	内面: 10YR8/3にぶい黄褐色 外面: 10YR7/3にぶい黄褐色	ロクロ/回転ナデ/回転糸切り
47	75	47	7区	SX-1	拂前	甕	4	31.0	7.2	33.0	やや良	内面: 5Y7/6難 外面: 2.5Y6/6にぶい難 断面: 5Y7/6難	初期
48	70	48	7区	II層	窓戸・尖底	灰陶灰陶(底部)	5				良	内面: 2.5Y7/5灰陶 外面: 2.5Y7/5灰陶 断面: 2.5Y7/5灰陶	底部に回転糸切り
49	74	49	2区	II層	備前燒	粗粒(口縁部)	6	28.8			やや良	内面: NS/灰 外面: 2.5Y7/2灰陶 断面: 2.5Y5/3にぶい赤陶	初期
50	76	50	2区	II層	備前燒	甕(口縁部)	4	29.8				内面: 2.5Y5/2灰陶 外面: 2.5Y7/2赤陶 断面: 2.5Y5/1赤陶	
51	72	51	2区	SX-2	須恵器	提梁?(胸部)	7					内面: 5Y5/1灰 外面: 5Y5/1灰 断面: 5Y5/1灰陶	
52	72	52	2区	II層	瓦質土器	鍋(口縁部)	8	24.5				外側: 5Y7/2灰白 内面: 5Y6/1灰	
53	73	53	2区	II層	土師質土器	鍋(口縁部)	9	60				内面: 10YR7/4にぶい黄褐色 外面: 10YR6/6にぶい黄褐色 断面: 2.5YR6/6難	
54	51	54	7区	SD-5	土師質土器	杯(底部)	1			4.4	良	内面: 7.5YR7/4にぶい黄褐色 外面: 10YR7/4にぶい黄褐色 断面: 10YR7/4にぶい黄褐色	ロクロ/回転ナデ/回転糸切り
55	46	55	7区	SD-5	土師質土器	杯(底部)	1			4.6	良	内面: 7.5YR7/4にぶい黄褐色 外面: 10YR7/3にぶい黄褐色 断面: 10YR7/3にぶい黄褐色	ロクロ/回転ナデ/回転糸切り
56	44	56	7区	SD-5	土師質土器	杯(底部)	1			5.0	良	内面: 10YR7/4にぶい黄褐色 外面: 10YR7/4にぶい黄褐色 断面: 7.5YR7/4にぶい黄褐色	ロクロ/回転ナデ/回転糸切り
57	65	57	7区	SD-5	土師質土器	杯	2	11.6	2.8	7.0	良	内面: 10YR7/3にぶい黄褐色 外面: 10YR7/3にぶい黄褐色 断面: 10YR7/3にぶい黄褐色	ロクロ/内外面指圧ナデ
58	3	58	2区	II層	土師質土器	杯(底部)	1			5.7	良	内面: 10YR8/4にぶい黄褐色 外面: 10YR8/4にぶい黄褐色 断面: 10YR7/4にぶい黄褐色	ロクロ/回転ナデ/回転糸切り
59	43	59	7区	SD-3	土師質土器	杯(底部)	1			6.0	良	内面: 7.5YR7/3にぶい黄褐色 外面: 7.5YR7/4にぶい黄褐色 断面: 10YR7/3にぶい黄褐色	ロクロ/回転ナデ/回転糸切り
60	46	60	7区	SD-5	土師質土器	杯(底部)	1			4.8	良	内面: 7.5YR7/3にぶい黄褐色 外面: 7.5YR7/3にぶい黄褐色 断面: 7.5YR7/3にぶい黄褐色	ロクロ/回転ナデ/回転糸切り
61	47	61	7区	SD-5	土師質土器	杯(底部)	1			5.6	良	内面: 5Y7/6/6難 外面: 7.5YR7/4難	ロクロ/回転ナデ/回転糸切り
62	9	62	7区	II層	土師質土器	杯(底部)	1			4.5	良	内面: 2.5Y7/2灰質 外面: 2.5Y7/2灰質 断面: 2.5Y7/2灰質	ロクロ/回転ナデ/回転糸切り
63	32	63	7区	SD-5	土師質土器	杯	1	11.2	3.55	4.6	良	内面: 7.5YR7/4にぶい黄褐色 外面: 7.5YR7/4にぶい黄褐色 断面: 7.5YR7/4にぶい黄褐色	ロクロ/回転ナデ/回転糸切り
64	50	64	7区	SD-5	土師質土器	杯(底部)	1			4.9	良	内面: 7.5YR6/4にぶい黄褐色 外面: 10YR7/4にぶい黄褐色 断面: 7.5YR6/4にぶい黄褐色	ロクロ/内外面指圧ナデ
65	62	65	7区	SD-5	土師質土器	杯	2	10.1	2.6	6.4	良	内面: 7.5YR6/4にぶい黄褐色 外面: 10YR7/4にぶい黄褐色 断面: 7.5YR6/4にぶい黄褐色	ロクロ/内外面指圧ナデ

表4 遺物観察表

番号 No.	図 No.	写真 No.	出土地点	遺物・部位	種類	器種	分類	法量(cm)			粘土	焼成	色調	若 鮫 成形/調整/その他
								口径	高さ	底径				
66	48	66	7区	SD-5	土師質土器	杯	I		3.6				内面：5YR7/6微 外面：5YR7/6微 断面：5YR7/6微	ロクロ／圓軸ナダ／ 圓軸糸切り
67	42	67	7区	SD-5	土師質土器	杯 (底部)	I		5.2				内面：7.5YR7/4に近い微 外面：7.5YR7/4に近い微 断面：7.5YR7/4に近い微	ロクロ／圓軸ナダ／ 圓軸糸切り
68	49	68	7区	SD-5	土師質土器	杯 (底部)	I		5.2				内面：7.5YR7/4に近い微 外面：7.5YR7/4に近い微 断面：7.5YR7/4に近い微	ロクロ／圓軸ナダ／ 圓軸糸切り
69	63	69	7区	SD-5	土師質土器	杯	2	11.6				良	内面：7.5YR7/4に近い微 外面：7.5YR7/4に近い微 断面：7.5YR7/4に近い微	ロクロ／内外面捺压 ナダ
70	66	70	7区	SD-5	土師質土器	杯	2	11.2				良	内面：7.5YR7/4に近い微 外面：7.5YR7/4に近い微 断面：7.5YR7/4に近い微	ロクロ／内外面捺压 ナダ
71	68	71	7区	SD-5	土師質土器	杯	2	10.6	2.25	5.8		良	内面：10YR7/4に近い微 外面：7.5YR7/6微 断面：7.5YR7/4に近い微	ロクロ／内外面捺压 ナダ
72	53	72	7区	SD-5	土師質土器	杯 (口縁部)	I	12.6					内面：7.5YR7/4に近い微 外面：7.5YR7/4に近い微 断面：7.5YR7/4に近い微	ロクロ／圓軸ナダ
73	56	73	2区	II層	土師質土器	杯 (口縁部)	I	11.0					内面：10YR7/4に近い微 外面：7.5YR7/6微 断面：7.5YR7/4に近い微	ロクロ／圓軸ナダ
74	54	74	7区	SD-5	土師質土器	杯 (口縁部)	I	9.9					内面：7.5YR7/4に近い微 外面：7.5YR7/4に近い微 断面：7.5YR7/6微	ロクロ／圓軸ナダ
75	78	75	2区	II層	砾石			3.8 (全長)	0.6 (全幅)	0.6 (全厚)				
76	77	76	2区	II層	砾石			7.6 (全長)	3.0 (全幅)	6.0 (全厚)				
77	81	77	2区	II層	五輪塔	火輪		13.9 (全長)	25.0 (全幅)					
78	79	78	2区	II層	五輪塔	火輪		24.8 (全長)	26.5 (全幅)					
79	80	79	2区	II層	五輪塔	水輪		19.1 (全長)	23.4 (全幅)					

## 第Ⅳ章 総 括

旧予岳寺跡の発掘調査により出土した遺物は弥生時代から近世に至る遺物が出土している。弥生時代に関しては弥生土器の細片が遺物包含層で発見されている。弥生時代に伴う明確な遺構は確認できていないが、圃場整備事業に先立つ事前の試掘確認調査により弥生時代中期の太形船刃石斧が出土し、また以前から本地域では石包丁が2点出土している。続く古墳時代の遺物としては須恵器の壺片、杯の口縁部、提瓶の肩部片が包含層遺物で確認でき、土坑からも須恵器細片が出土している。奈良・平安時代の遺物としては包含層より須恵器細片が出土している。のことから旧予岳寺造営建立に伴う土地造成により周辺の山麓部に所在した弥生、古墳、古代の遺構は削平または破壊されたと考えられる。

山田氏により16年の歳月をかけて造営された予岳寺に関係する遺構は、耕作土下に僅かに見られる包含層下に検出確認できる。しかし、江戸時代初期における旧予岳寺の焼失による現在地への移転再興により耕作地へと開墾変貌したためか建物礎石、石仏、五輪塔など寺院に関係する遺構、遺物は少ない。遺構に関しては大型の根建柱建物跡以外は、ピットの深さも浅く、五輪塔に関する基壇と思われる配石、五輪塔の水部や火部が僅かに出土している。

根建柱建物跡は3棟確認できる。特にSB1は2間×5間の規模を有する。

礎石柱建物跡の基壇と考えられる遺構は、調査区内で長方形状、或いは正方形状のプランを有する部分で割り石が集中して散乱している箇所が数ヶ所確認でき、礎石そのものは取り除かれ全く残っていないが一番規模が大きい長方形状の遺構が第2調査区で確認でき旧予岳寺の本堂であった薬師堂と推定される。現状の農地区画毎に同じようなものが確認でき子院の礎石柱建物跡と考えられる。

第5調査区において円形状の大きな掘り込みが確認できた。掘り込みの底部は平らで井戸とは考えられず、上段の高いレベルより小溝が接続しておりその池状の掘り込みに備前焼の大壺が破片で出土している。また池状の遺構内には石が多数確認されたことから立石に使われた庭石と考えられ、園地遺構と推定できる。

調査区中央には北から南に向かって傾斜する大溝SD-5が確認できた。その中より土師質土器が多量に一括出土している。

土師質土器の殆んどは杯で、特にロクロ形成され底部には回転糸切りがみられ、底部の直径4cm内外、口縁部直径10cm内外を計る遺物がほとんどである。また手づくねによる杯もみられ良好な資料を得ることが出来た。当該遺物の時期は15世紀後半から16世紀前半に位置付けられる。

当発掘区は旧予岳寺跡の推定範囲のなかでも中心地と推定でき、発掘調査区南側は圃場整備事業施工により遺構に影響が無いことから遺構検出に留めた。調査区との連続性を観察でき、基壇と思われる遺構、ピット群、溝跡など将来において継続した調査が必要である。

## 予岳遺跡ツエガ谷地区

## 例　言

1. 本書は、土佐山田町教育委員会が平成7年度に実施した山田北部地区県営圃場整備事業に伴う予岳遺跡ツエガ谷地区的発掘調査報告書である。
2. 予岳遺跡は、高知県香美郡土佐山田町予岳字ツエガ谷に所在する。
3. 当該地の発掘調査は平成7年9月1日から平成7年10月20日、調査面積500m<sup>2</sup>である。資料整理・報告書作成は平成7年度、平成15年度におこなった。
4. 調査体制は以下のとおりである。

調査主体 土佐山田町教育委員会

調査事務 土佐山田町教育委員会

平成7年度 平成15年度

教育長	門脇 昭	教育長	原 初恵
社会教育課長	前田 智	社会教育課長	山崎泰広
調査事務	中山泰弘	調査事務	小林麻由
調査担当	中山泰弘	調査担当	中山泰弘

5. 発掘調査にあたっては、地元予岳地区の方々、土佐山田町文化財保護審議会、山田北部土地改良区、高知県南国耕地事務所（現中央東耕地事務所）、高知県教育委員会、（財）高知県文化財団、高知県立埋蔵文化財センターの協力を得た。また、発掘調査・遺物整理・図面作成作業にあたって、下記の方々の協力を得た。

現場作業員 佐々木龍男、小松一仁、池 宜弘、山崎政子、山下厚子、伊藤 仁、大塚俊明

整理作業員 竹崎寛裕、高橋加奈、宗右祥一

6. 本書の執筆は中山が行った。

7. 出土遺物及び調査資料については、土佐山田町教育委員会が保管している。なお、遺物についての注記は、「95-93 YY TT」を使用する。

## 調査に至る経過及び調査方法

山田北部地区県営圃場整備事業楠目工区に所在する予岳遺跡について、昭和63年度に埋蔵文化財包蔵地の範囲確認及び予想される本調査の基礎資料を得るために試掘確認調査を実施した結果、ツエガ谷地区において遺物が出土することが確認された。このため整備事業により遺跡への影響があると考えられるので、事前の発掘調査を実施することにより記録保存を図ることを目的として実施した。

調査の方法は、調査対象地にトレンチを8箇所設定し、遺物、遺構が確認された場合は調査区の拡張を行った。

## 遺構と遺物について

当該発掘調査区において遺構は確認されなかったが、Ⅱ層の遺物包含層より須恵器片、備前焼片、土師質土器片が数点出土した。須恵器は瓶、甕が出土し、甕は表面にはタタキ目による調整、内面には青海波文がみられる。土師質土器は小片で底部に僅かに回転糸切りがみられる。また図示していないが4世紀の土師器の壺胴部片が出土している。

## 総　括

ツエガ谷地区は地名のとおり、発掘調査区によっては湧水がみられ、粘土の層もみられた。出土遺物から4世紀の土師器から遺構の存在が予想されるが遺物は削平による破損がみられる。また古墳時代の須恵器片は当地が山麓傾斜地の地形から古墳が存在した可能性が高い。

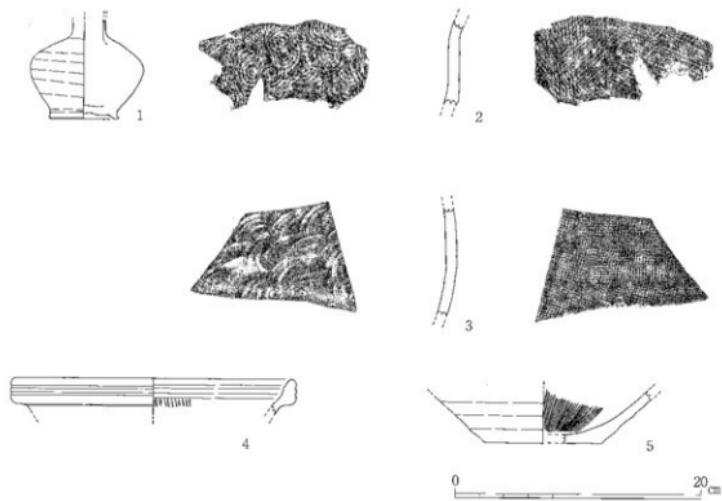


図12 出土遺物実測図⑥(ツエガ谷地区出土遺物実測図)

表5 ツエガ谷地区出土遺物観察表

実測 No.	写真 No.	分類 遺物・部位	出土地点 遺物・部位	性状	器種	法量 (cm)			粘土	焼成	色調	特徴 成形/調整/その他
						口径	部高	底径				
1	1	1	I層	須恵器 (底盤)	瓶			5.7	灰白色で縦線	良	内面: 2.5YR1/黄灰 外面: 5Y9/2灰 断面: 5Y7/1灰白	外面クロコによる表ナデ痕 内部観察不可
2	2	2	II層	須恵器 (側面)	更				灰色横線	良	内面: NS灰 外面: NS灰 断面: 5R0/1紫灰	
3	3	3	II層	須恵器 (側面)	甕				練造された粘土	良	内面: 2.5Y6/1黄灰 外面: 2.5Y6/1黄灰 断面: NS灰	
4	4	4	II層	須恵器 (口縁部)	擂鉢	(22.9)			練造された粘土	良	内面: 5YR4/2灰褐色 外面: 7.5YR3/2黒褐色 断面: 10Y3/6にぶい黄褐	
5	5	5	II層	須恵器 (底盤)	擂鉢			(9.6)	練造された粘土	良	内面: 7.5YK7/6にぶい棕 外面: 7.5YR7/6棕 断面: 7.5YR7/4にぶい棕	



図13 ツエガ谷地区トレンチ配置図

写真 11



発掘調査区実況状況



TR1 実況状況



TR2 実況状況



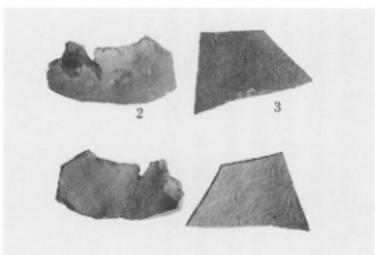
TR4 実況状況



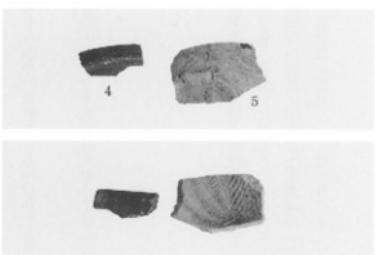
TR4 遺物出土状況



出土遺物



出土遺物



出土遺物

予岳遺跡ツエガ谷地区調査状況と出土遺物

史料一 予岳寺薬師如來坐像胎内墨書き

其時奉行馬場次郎衛門義泰

【前頭部】

大仲臣

阿闍梨

七条 大仲臣道口

佛身 康口 「

【後頭部】

南無藥師瑠璃光如來

南無藥師瑠璃光如來

瑞琉璃光如來 奉行岩村式部

慶樹

大仲臣道口

佛助康慶

一位小笠原儼斐

南無藥師瑠璃光如來

【腰部】

(一四六六)

文正元年丙戌八月廿五日

父子仁德

七東条佛助康慶

史料二 『皆山集』

山田下総守大仲臣元道法名豫活爲親大居士善提として居城ノ僧ニ豫

寺の基を開き長禄元年ニ建立始り文正元年吉十二年之洞ニ七堂伽藍

十二坊全稱シ周防國泰雲寺開心和尚當國に來り開基元道法尊依し勧ひて

第一世之住持となり御国にて禪宗最初之道場ニて瑞應寺も元来豫活寺

之末寺ニ而其比ハ長岡郡豊岡城下ニ在り豫活寺之大體那山田氏之家天

文十三年之秋豊岡之城主長曾我部元親之為ニ滅<sup>レ</sup>にして豫活寺第二衰

微セリ是に依て瑞應寺之大體那家元親家臣と評議し給ひ本末之狀有ヲ

以豫活寺を瑞應寺之支配寺と定め右由緒之古跡故ニ 一豊公御入國之

御時分御利物を以本田六石二升五合外に寺附山宅ヶ所長四百間程横平

等三百五十間程右山内ニ新田寺地七石四斗役知治四石八斗六升七分右

本田林共御寄附有之

山田家断絶後寺塔及び破壞寛文年中瑞應寺海南和尚以願今之地へ移

云々

史料三 『土佐州郡志』

在村西北櫛宗寺旁萬松山狂心院本尊觀音伝へ曰夕後上御門院ノ御宇文正

元丙戌歲山田ノ城主伊氏朝臣山田下総ノ守諱ハ元道法名ハ豫活常悅ト  
云者ノ所建也開山ハ雪心真照和尚和尚ハ石見ノ国人此當國曹洞禪ノ始祖古ハ七堂伽藍經年累月ヲ退軒シ近世更メ移ス山上ニ有一豐公ノ文書

并執事臣ノ禁制書

# 写真図版

写真1



遺構① 旧予岳跡周辺航空写真（園場整備前）



遺構② 旧予岳寺跡

写真 3



旧予岳寺跡遠景



旧予岳寺跡



現在の予岳寺



旧予岳寺跡より楠木城跡（山田城）を望む



遺構検出状況



遺構検出状況



遺構検出状況



遺構検出状況



遺構検出状況



遺構検出状況



集石検出状況



遺構検出状況



遺構検出状況



遺構検出状況



遺構検出状況



SD-5 検出状況

写真 5



SD-5 遺物出土状況



SD-5 遺物出土状況



SD-5 遺物出土状況



SD-5 遺物出土状況



五輪塔出土状況



五輪塔出土状況



五輪塔出土状況



備前窯出土状況



旧予岳寺跡完掘状況（西より）



旧予岳寺跡完掘状況（東より）

写真7



造構完振状況



造構完振状況

写真9



道構完據状況



遭構完壊状況

写真12

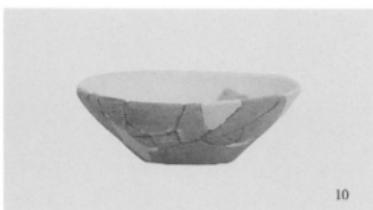
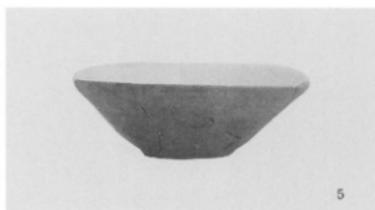
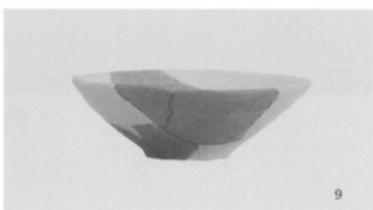
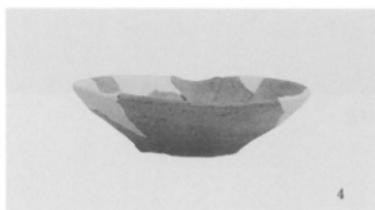
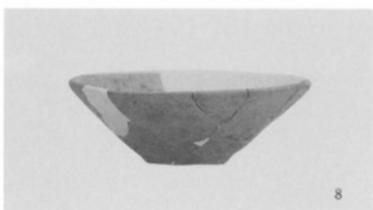
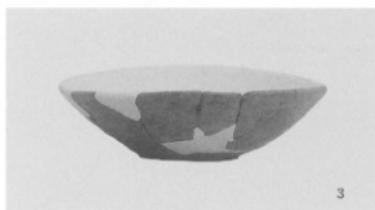
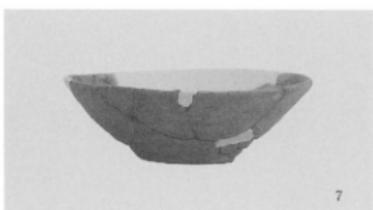
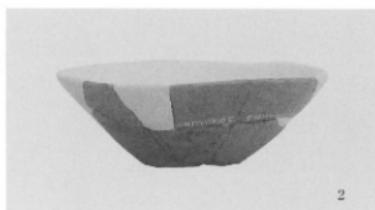
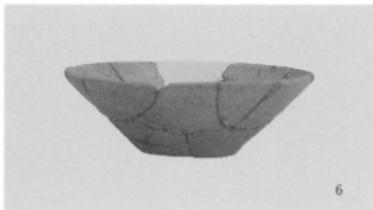
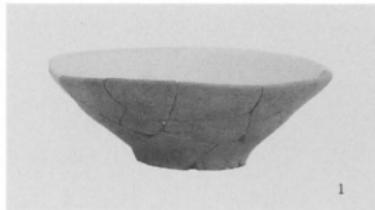
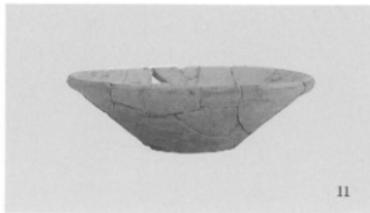
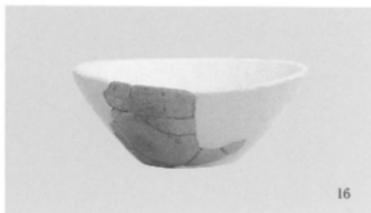


写真13



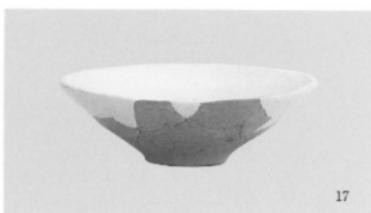
11



16



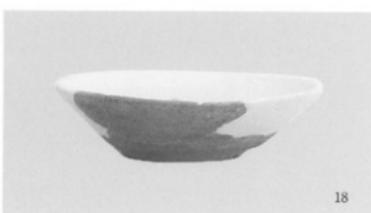
12



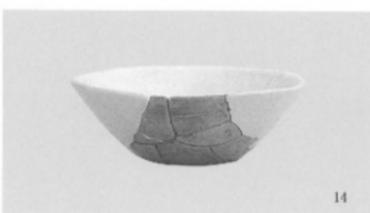
17



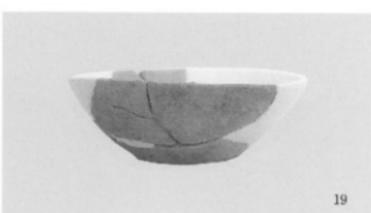
13



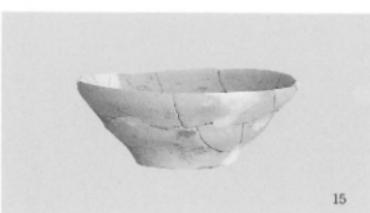
18



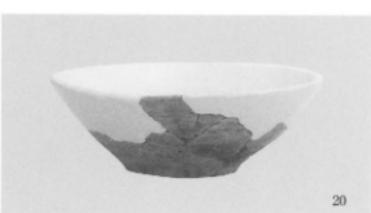
14



19

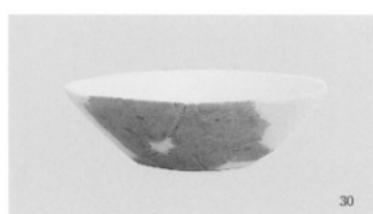
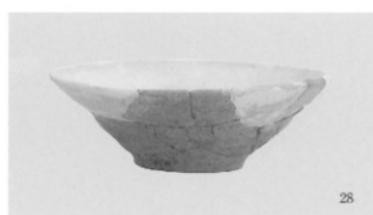
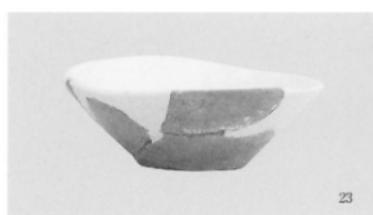
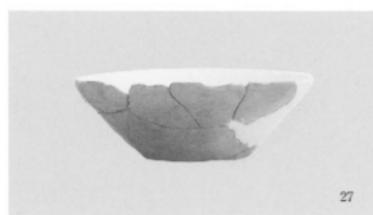
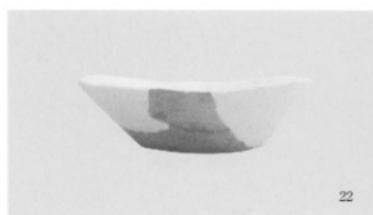
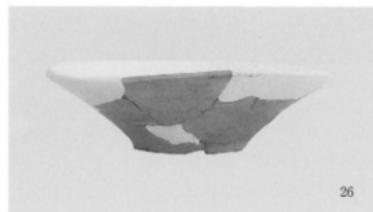


15



20

写真 14



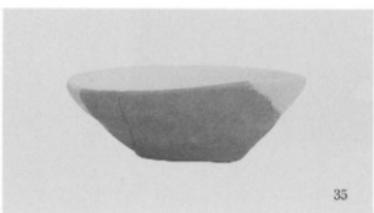
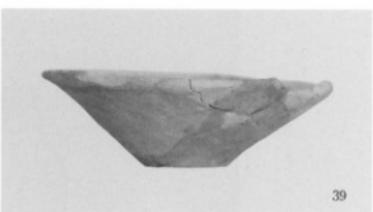
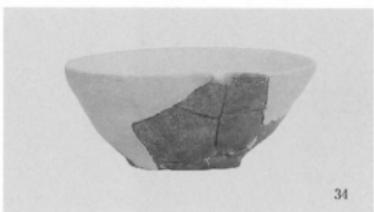
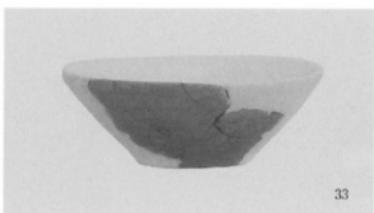
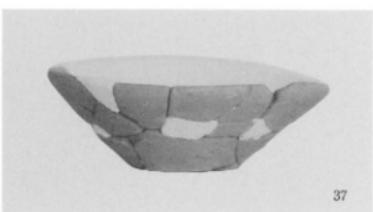
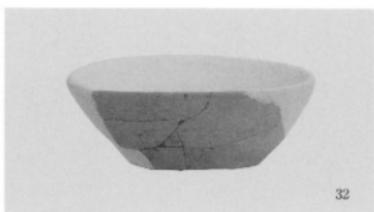
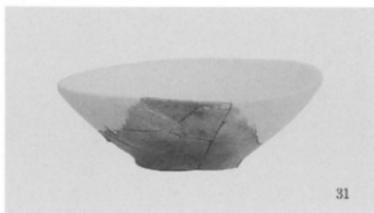


写真16

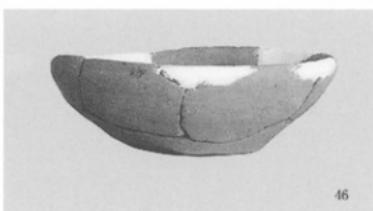
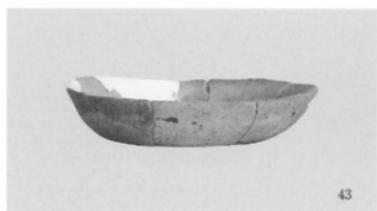
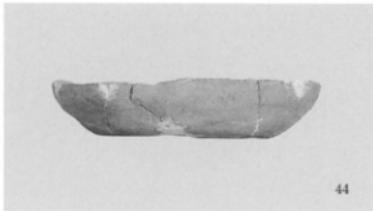
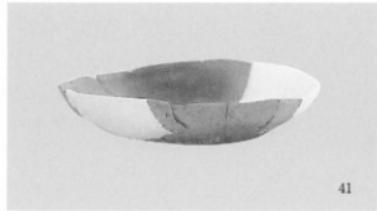


写真17

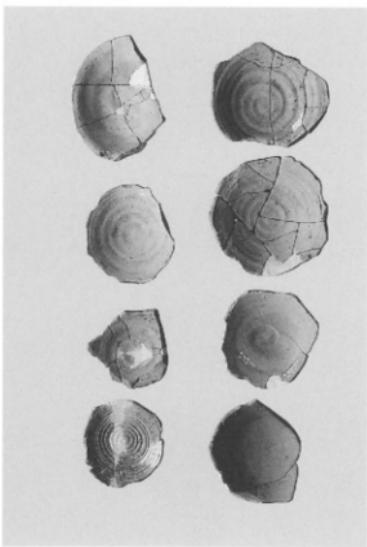
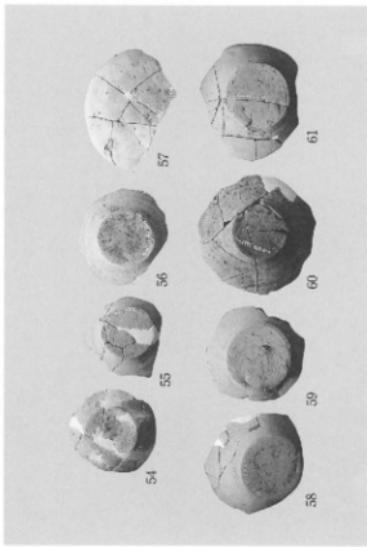
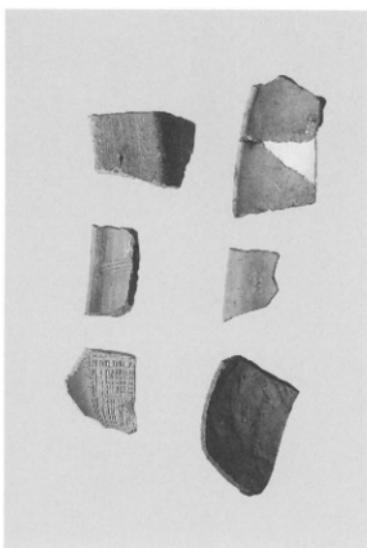
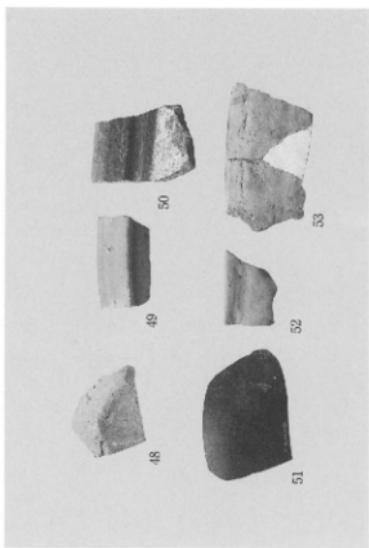
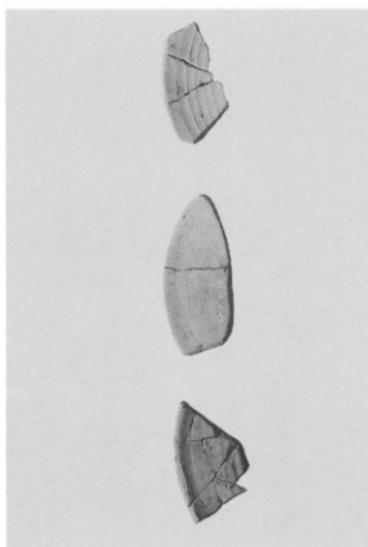
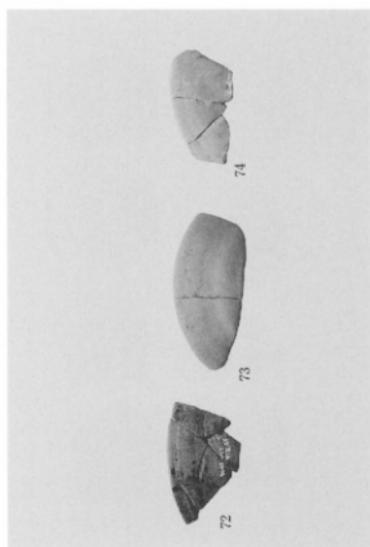
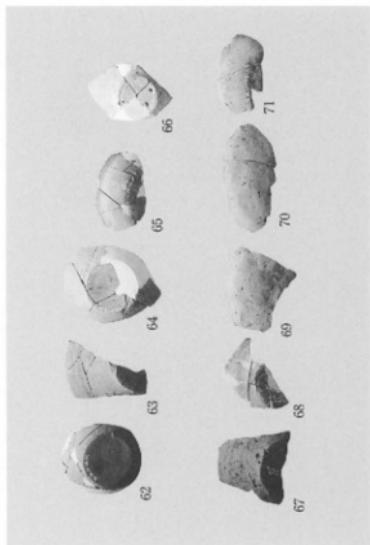


写真18



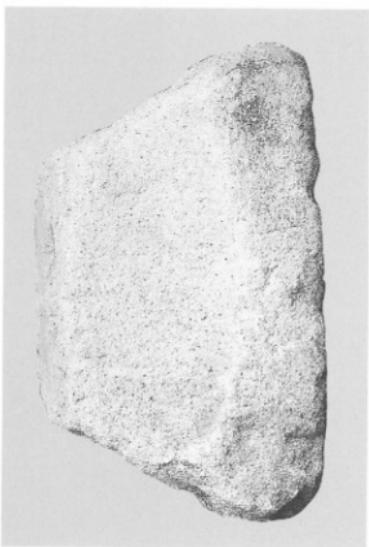
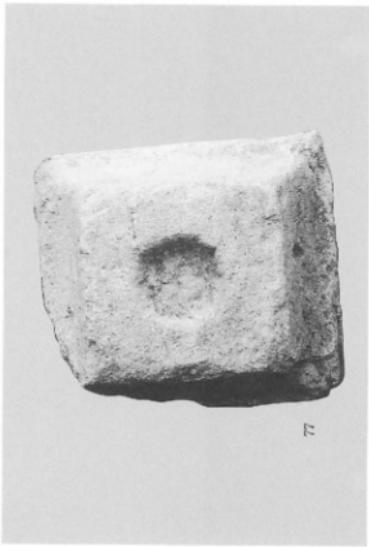
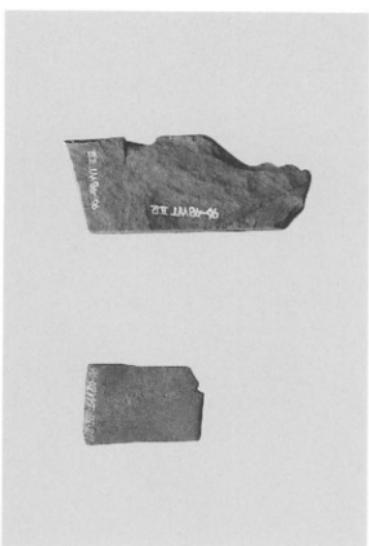
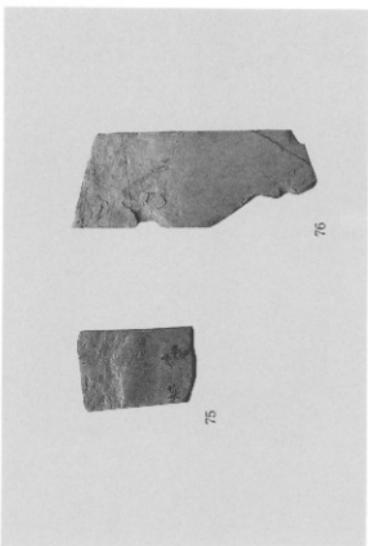
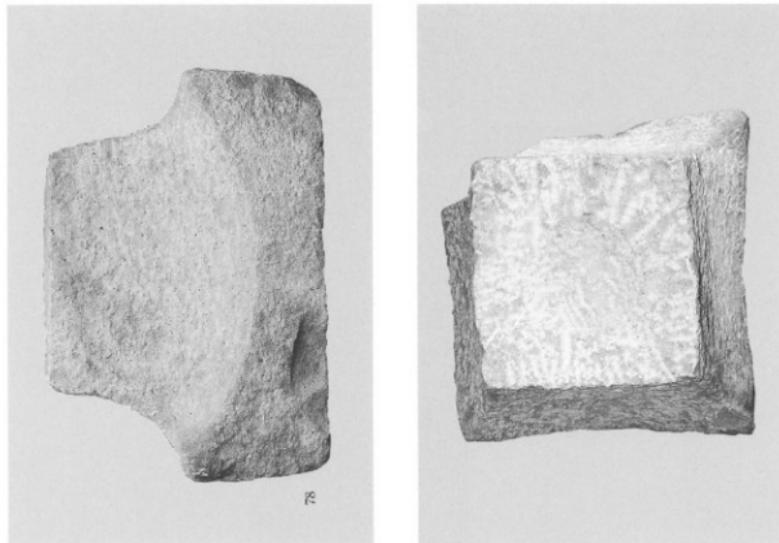
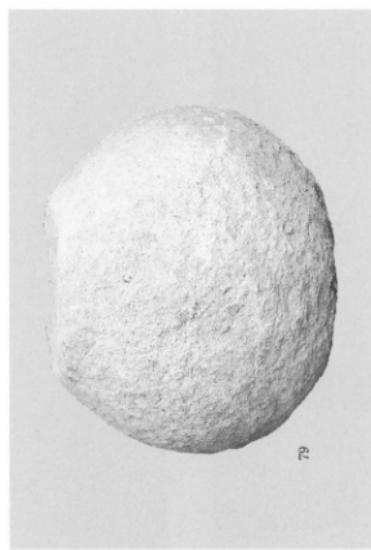


写真20



71

72



報告書抄録

ふりがな	きゅうよ がくじあと よ がくいせき ツエガ谷地区							
書名	旧予岳寺跡・予岳遺跡ツエガ谷地区							
副書名	山田北部県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書							
r z	I							
シリーズ	土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第25集							
編著者名	中山泰弘							
編集機関	土佐山田町教育委員会							
所在地	〒782-0017 高知県香美郡土佐山田町岩積365-1 TEL(0887)53-3111							
発行年月日	西暦2003年9月30日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	調査面積		
旧予岳寺跡	高知県香美郡 土佐山田町 予岳 字門前 2829-1他	393231	190210	33° 37° 050°	133° 41° 863°	1996年9月2日 ~ 1997年2月2日	2,500m <sup>2</sup>	緊急調査
予岳遺跡	高知県香美郡 土佐山田町 予岳 字ツエガ谷 他	393231	192211	33° 37° 080°	133° 41° 685°	1995年9月1日 ~ 1995年10月20日	500m <sup>2</sup>	緊急調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
旧予岳寺跡	寺院跡	中世	掘立柱建物跡、溝跡、土杭、池跡、基壇跡、柱穴	土師質土器、染付、備前焼、瀬戸美濃系陶器、青磁、弥生土器、須恵器				
予岳遺跡	散布地	古墳・中世		須恵器、備前焼、土師質土器、土師器				

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第25集

旧予岳寺跡・予岳遺跡ツエガ谷地区

2003.9.30

発行 土佐山田町教育委員会

高知県香美郡土佐山田町岩積365-1

TEL 0887-53-3111(代)

印刷 西村謄写堂